

# 海況速報

平成10年度 第5号 (通算 No.65)  
平成11年 1月19日  
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

## 11月中旬～12月中旬の海況

### 【日本海海域】

本道西岸沖を北上する対馬暖流は瀬棚沖北緯42度30分を越えたあたりから二つの流れに分岐しているようです。一つは100m層で水温10℃以上の沿岸に沿って流れる部分。もう一つは50m層水温8～9℃(100mでは水温5～6℃)で、一度西方に向かってから北東方向に流れる部分。この二つの流れは北緯43度30分と北緯44度30分の間で再び合流しているようです。北緯44度30分線上では、たとえば100m層水温6℃以上の岸からの幅が前回(10月)に比べて半減していて、暖流域の幅が狭くなって天売・焼尻島のすぐ西側を北上しています。北緯42度30分以南では対馬暖流は東経139度00分線以東の比較的狭い範囲(たとえば100m層では水温5℃以上の範囲)を安定して流れていますが、津軽海峡西口の北側に小さな暖水渦(200m層水温11℃以上、表層～100m層水温16℃以上)がとらえられているようです。

水温について見ると、北緯45度30分線では、累年平均(\*1)に比べ、礼文島北西定点(東経140度53分)では200m層で+0.5℃、100m層で+1.0℃、50m層で+0.5℃、表面で+0.1℃、東経141度10分以東では、100m層で-0.1～+1.7℃、50m層で+0.5～+0.7℃、表面で+0.7～+1.1℃となっています。北緯44度30分線では、累年平均に比べ、東経141度00分以東の天売・焼尻島北側では、100m層で-0.1～+0.7℃、50m層で-0.1～+0.8℃、表面で-0.3～+0.2℃となっています。北緯43度30分線では、累年平均に比べ、石狩湾湾口部(東経141度00分)の表面で+0.3℃、50m層で+0.3℃、積丹岬北西沖定点(東経140度20分)の200m層で+0.5℃、100m層で+2.2℃、50m層で+0.8℃、表面で+0.0℃になっています。瀬棚沖の最も岸寄りの定点(北緯42度30分、東経139度40分)では、累年平均に比べ、200m層で+0.2℃、100m層で+1.6℃、50m層で+1.5℃、表面で+1.1℃となっています。北緯41度30分線で最も岸寄りの定点(東経139度50分)では、累年平均に比べ、200m層で-1.4℃、100m層で-0.2℃、50m層で+2.5℃、表面で+1.9℃となっています。松前西方で最も岸寄りの定点(北緯41度20分、東経140度00分)では、累年平均に比べ、200m層で+1.9℃、100m層で+4.1℃、50m層で+2.3℃、表面で+2.1℃となっていて、100m層以浅では1989年以降で最高値を示しています。なお、表面では合計10観測点で1989年以降で最高値を示しています。

余市における11月上旬以降1月上旬までの沿岸水温(旬平均)は、平年値に比べ、11月上旬の+0.3℃(「平年並み」)から12月上旬の-0.9℃(「やや低い」)まで下がりましたが、その後、12月下旬に+0.0℃(「平年並み」)まで戻り、1月上旬は-0.9℃(「やや低い」)になっています。

### 【道東太平洋海域】

前回(10月)、北緯41度以北の海域に入り込んでいた暖水塊(中心域:北緯41度00～30分、東経145度30分、200m層水温10℃以上)は北西方向に約30海里ほど移動しました。100m層水温を見ると、道東沿岸に沿って5℃以上の水温帯が現れ、この道東沿岸流の流

域内ではすぐ沖側を流れる親潮よりも活発に鉛直対流が進行していることが分かります。水温について見ると、道東沿岸の50m層で最も岸寄りとなる定点の水温は、根室半島沖（北緯43度05分、東経145度45分）で+3.2℃、厚岸沖（北緯42度55分、東経145度00分）で+2.5℃、白糠沖（北緯42度45分、東経144度00分）で+1.7℃となっていて、道東沿岸流の上流側ほど水温偏差はプラス側に大きくなっています。また、これらの観測点では表層・50m層の水温はいずれも1989年以降で最高値を示しています。

### 【道南太平洋海域】

道南太平洋海域では、浦河南西方向観測線が荒天のため観測中止になっています。白老南方観測線では、100m層以浅の水温がほとんどのところで8℃以上あり、津軽暖流に覆われていることが分かります。

水温について見ると、白老南方観測線では、累年平均に比べ、白老沿岸の定点（北緯42度10分）の200m層で-0.2℃、100m層以浅で-0.1～+0.0℃となっています。恵山岬東側定点（北緯41度50分）では、累年平均に比べ、200m層で+0.1℃、100m層で-4.1℃、50m層で-3.6℃、表面で-4.2℃となっています。この観測点では、100m以浅の水温が1989年以降で最低値を示しています。下北半島北側定点（北緯41度30分）では、累年平均に比べ、200m層で-5.3℃、100m層で-1.9℃、50m層以浅で-0.6～-0.5℃となっています。この観測点では、100m以深の水温が1989年以降で最低値を示しています。ここでは津軽暖流の厚みが薄くなっていると考えられます。

### 【オホーツク海海域】

オホーツク海海域では荒天のため沖合側の観測点が観測中止になっています。宗谷海峡から本道オホーツク海沿岸部に沿って流れる宗谷暖流（この場合水温6℃以上）は、表面では東経143度10分以東には見られなくなりました。しかし、この宗谷暖流は潜流となって、50m層では東経143度40分まで、100m層では知床半島まで流れていることが確認できます。一方、表面・50m層では東カラフト寒流と見られる水温4℃以下の水が、西は宗谷海峡東方の東経142度30分まで、東は知床半島まで達しています。前年と比べると、潜流となっている宗谷暖流の水温が約1℃高くなっているようです。

水温について見ると、累年平均に比べ、オホーツク海沿岸部の50m層で最も岸寄りとなる定点の水温は、浜頓別沖（北緯45度13分、東経142度32分）では+0.8℃、紋別沖（北緯44度35分、東経143度20分）では-0.08℃、網走沖（北緯44度10分、東経144度20分）で-2.3℃、知床岬沖（北緯44度02分、東経144度50分）で-1.2℃となっています。この中で、網走沖と知床岬沖の50m層水温は1989年以降で最低値を示しています。

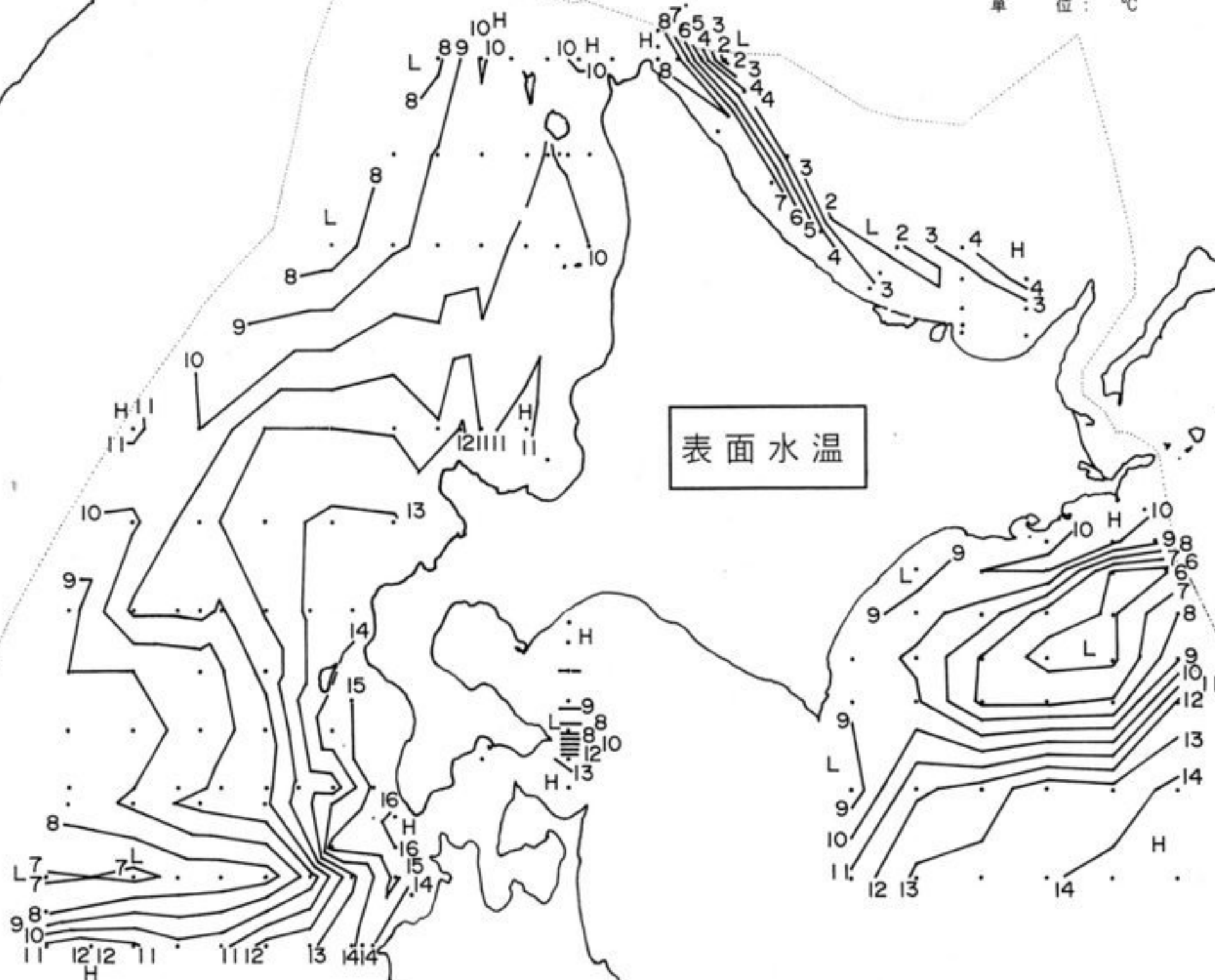
#### 資 料 〔観測期間〕

第一管区海上保安本部	平成10年11月26日～同11月28日	（道西日本海海域）
青森水試（東奥丸）	平成10年12月4日～同12月5日	（東北日本海海域）
稚内・網走水試（北洋丸）	平成10年12月7日～同12月11日	（オホーツク海海域）
稚内・中央水試（北洋丸）	平成10年11月30日～同12月1日	（道北日本海海域）
釧路水試（北辰丸）	平成10年11月16日～同11月20日	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成10年12月2日～同12月4日	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	平成10年11月26日～同12月1日	（道西・道北日本海海域）

\*1: 平成元(1989)年～平成9(1997)年までの平均値を使用しました。

（中央水試 海洋部）

表面水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

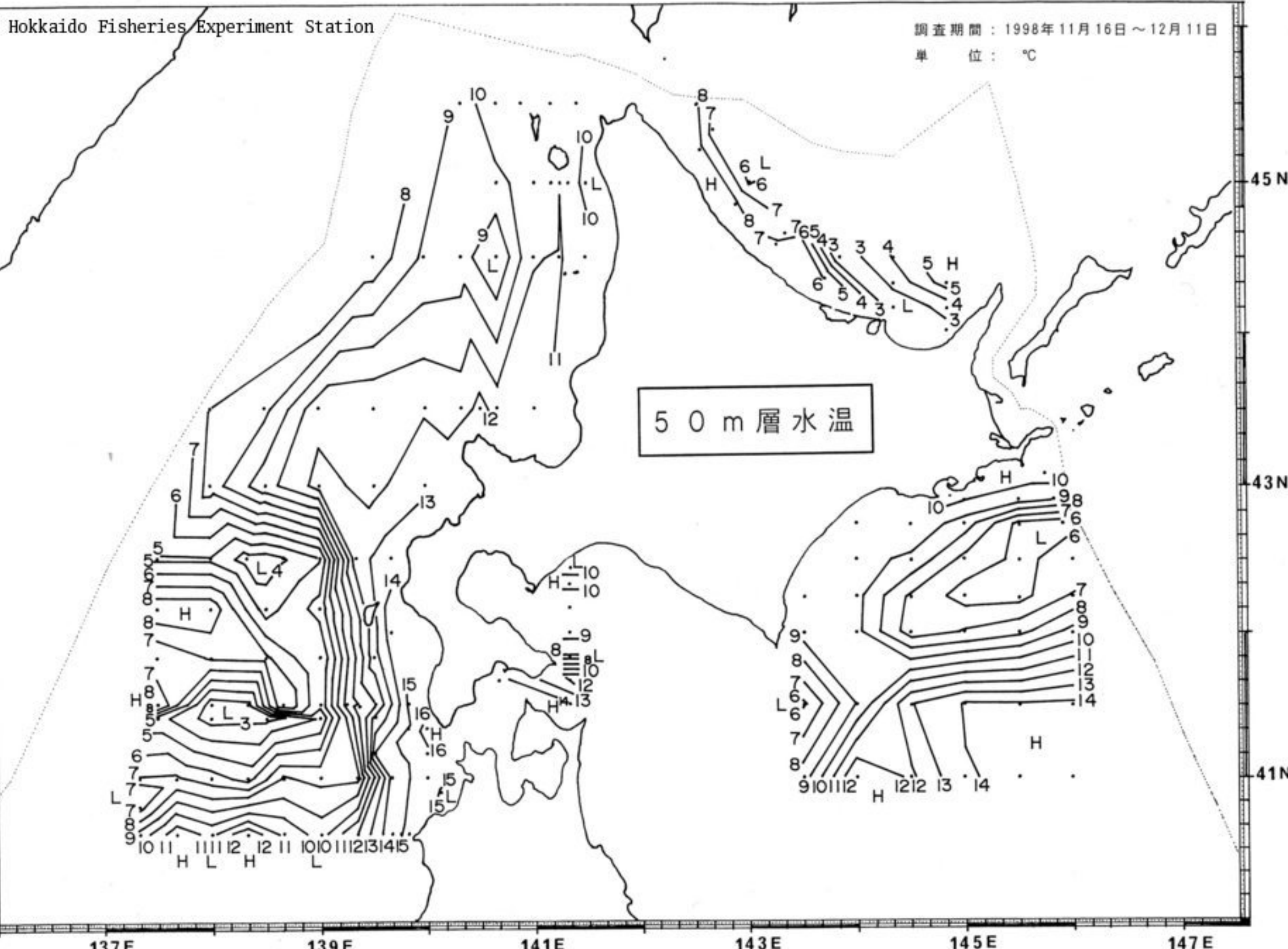
45N

43N

41N



50 m 層水温



137E

139E

141E

143E

145E

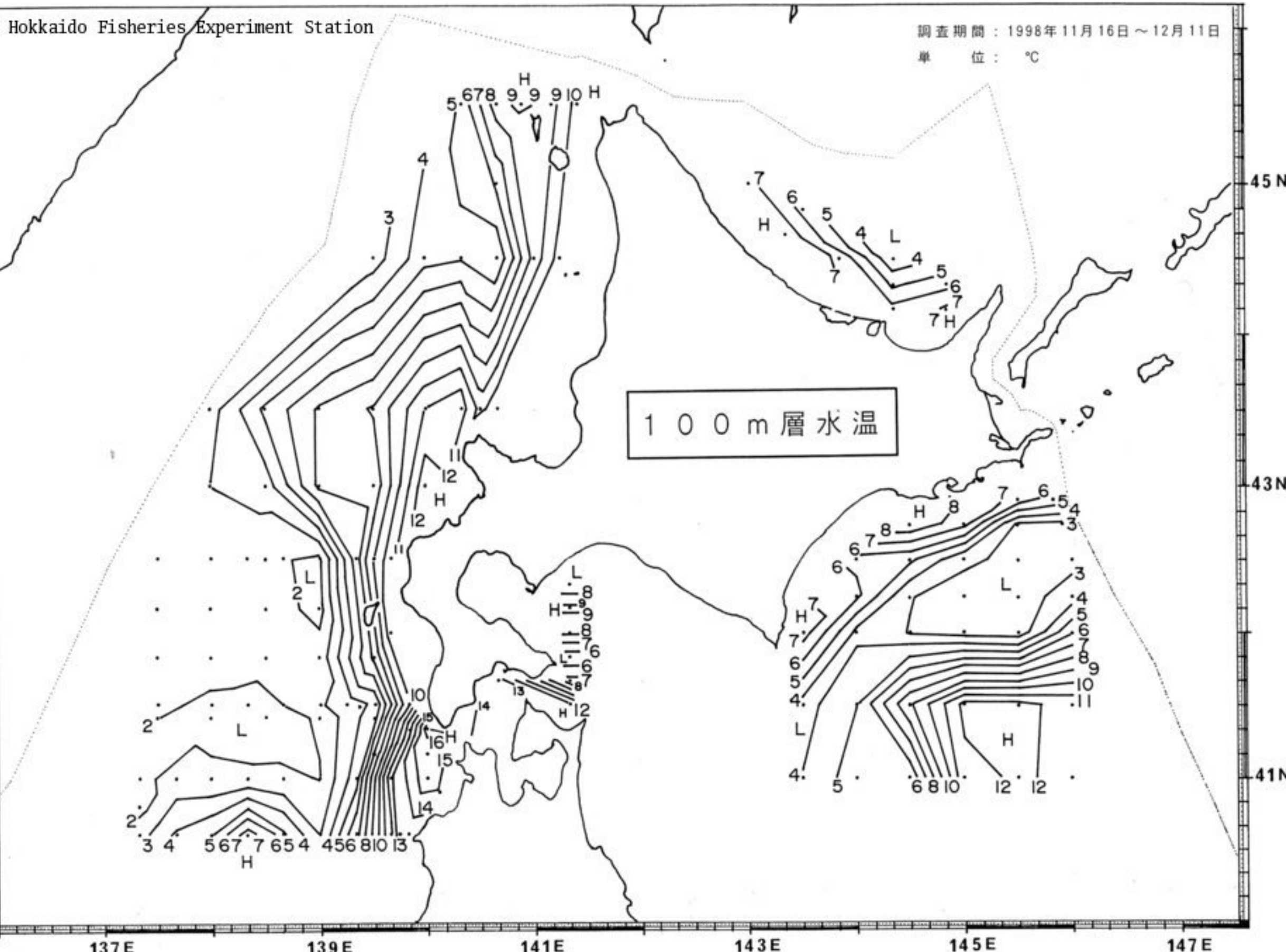
147E

45 N

43 N

41 N

100m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

45N

43N

41N

200m層水温

